

みさき

50号

美咲町議会だより

2017年11月10日発行

主な内容

創刊50号記念特集

議会報告会および意見交換会

こんなことが決まりました

10議員が町政を問う

2～3 28～31

4～5

8～9

18～27

表紙関連記事27ページ

大きく育て美咲の子ども あした 力合わせて未来をになう

美咲町HPアドレス <http://www.town.misaki.okayama.jp/index.htm>

町だから

美咲町民憲章

美しい川の流れを抱く^{いだ}

ふるさとの自然の恵み^{めぐ}を皆^{みんな}で守ろう

美しく連なる^{つら}棚田^{たなだ}のように

温かく^{あた}あいさつ^か交わし支え合おう

美しい星の導^{みちび}くように

受け継^ついだ文化の灯^{あかり}を明日^{あした}の夢に

美しく 笑顔の咲く町をめざして

ふたかみさん
二上山

標高689メートル
弥山、城山の二つの頂
を持ち、古くから霊山
と仰がれ、信仰の対象
となってきた。

定住促進を目指し魅力ある町へ

ぼくが育った

このまちへ

僕の祖父はこの町に生まれた

祖母は隣町に生まれ17歳で嫁いできた
農業だけで子ども4人を育てた

父は地元企業の勤め

母は町内に生まれ20歳で父と結婚した

休日には農業をして僕たち3人を育てた

僕は20歳で就職し都会へ出た

今年隣町の会社に仕事が見つかり

妻と2人の子どもを連れて帰って来た

僕を育ててくれたこの町に

兄弟や友達と遊んだあの山の麓に

そして僕もこの町で子どもを育てる

祖母は元気だ



条例に基づいた活動をしっかり
行っていると感じている。

町民の代表として行政の見張り役という最大の
仕事を忘れてはならない。

町のことを知るために、もっ
と議会だよりや町の広報誌
を読むようにします。

報告会は生の声を伝える良い機会なので
続けてほしい。

68人から叱咤・激励

8月22日～25日に町内3会場（中央・旭・柵原）において計3回開催しました。
会場で寄せられた意見とアンケートからのご意見の一部をご紹介します。

貴重なご意見誠にありがとうございました

【福祉事務所】 敬老祝い金の制度

問 町が支給している敬老祝い金は、制度変更の過程で貰える人と貰えない人が出ている。是正が必要。

答 30年度からは新たな制度に移行したい。

【教育総務課】 小・中一貫教育のメリット

問 柵原地域で検討されている小・中一貫教育のメリットとはどのようなものか。

答 義務教育9年間を見通した教育により学習意欲の向上や、中1ギャップの緩和などが期待できる。

【産業建設観光課】 町道法面などの猪被害

問 町道沿いの法面を猪が荒らすことで水路に土砂が堆積する。役場で対応できないか。

答 道路維持作業員によって可能な限り対応しているが、法面など全ての復旧までは難しい状況。



第6回 美咲町議会報告会・意見交換会

今の議会は町民が幸せを実感できる提言ができていない。

声に出せない町民の声を聞く方法を考えてほしい。

町民と議会の直接対話

美咲町の主要な事業計画や町の方向性を示してほしい。

要望書の取りまとめをすることが議会の仕事ではない。

議会報告会における 行政に対する 質問と回答 (抜粋)

【こども課】 病児保育の実施

問 病児保育の実施時期と医療機関名は。

答 29年度中に利用できるように準備している。医療機関は松尾小児科（津山市二宮）と小畑醫院（津山市志戸部）の2施設となる。

【健康福祉課】 国民健康保険短期証の発行

問 国保税が未納になっている人物に保険証が交付されたと聞くが事実なのか。

答 保険税（一時金）が納付された後、今後の支払約束を条件に短期証を交付した。手続き上問題はない。

厳しい中にも 徐々に改善傾向

歳入113億8,799万円 (27年度比1.1%の減)

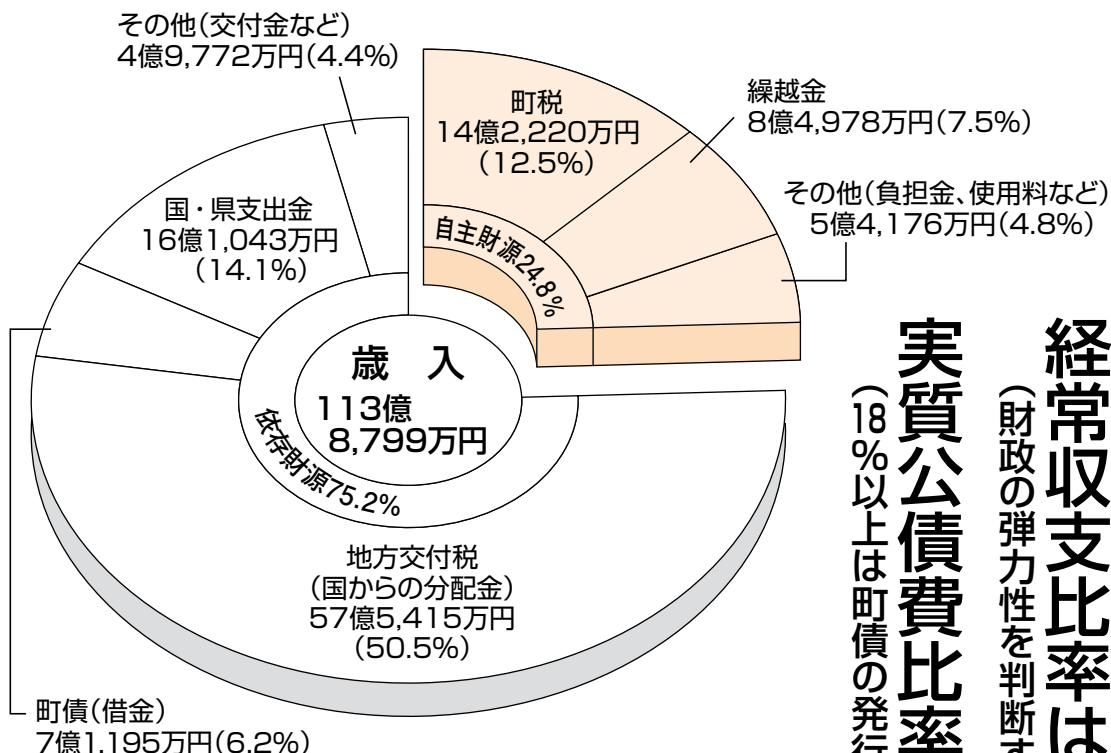
自主財源は約28億円 借金の返済に約17億円

28年度歳入歳出決算報告

一般会計決算

不納欠損額
(死亡などにより集金が不可能になったもの)
856万円

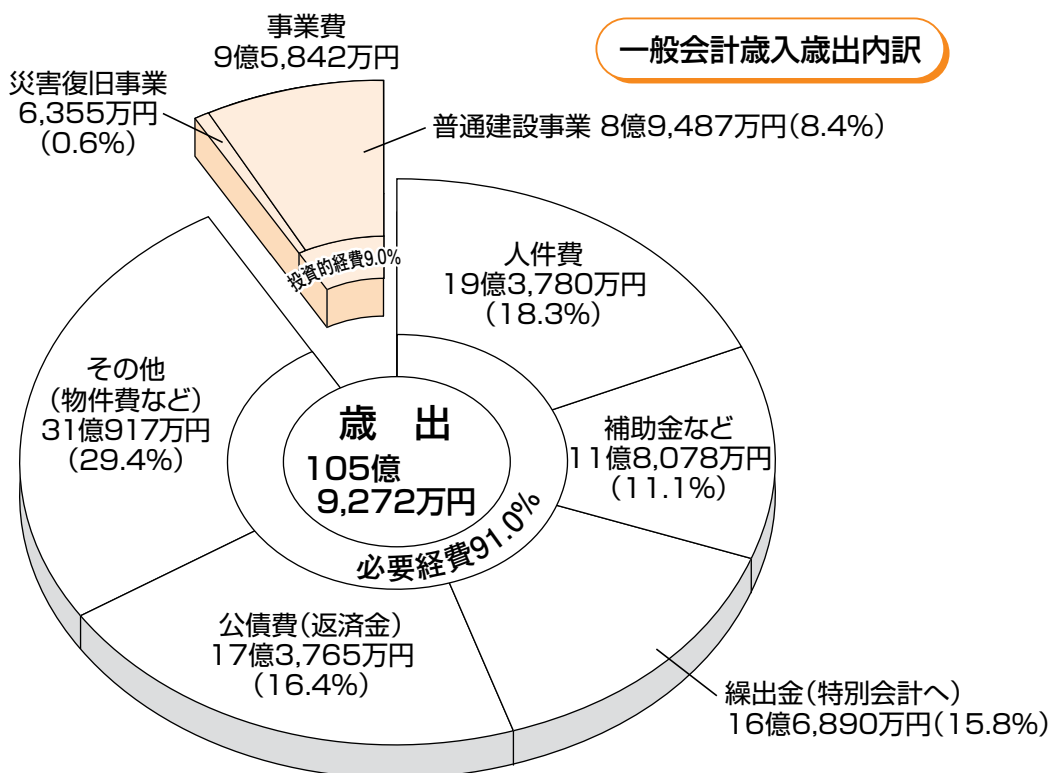
収入未済額
(集金が遅れているもの)
1億498万円



経常収支比率は83.9%
(財政の弾力性を判断する指数 75〜80%が健全とされる)

実質公債費比率は11.5%
(18%以上は町債の発行に県の許可が必要)

一般会計歳入歳出内訳



平成28年度決算認定は**全会一致**で可決

【決算認定特別委員会委員長報告】

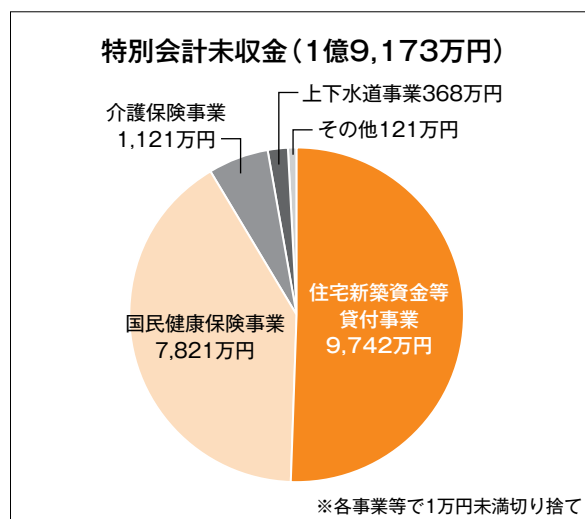
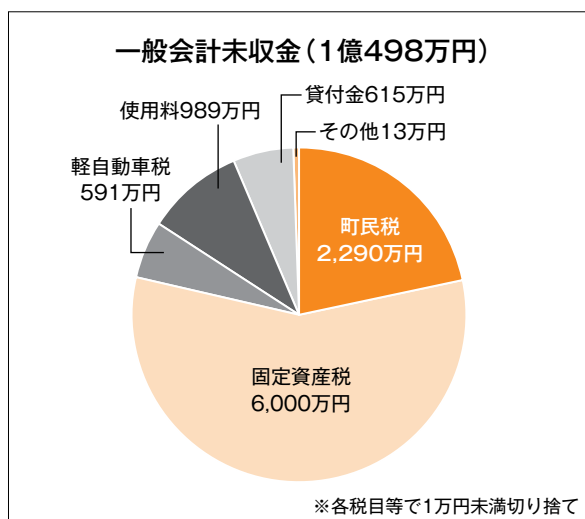
平成28年度一般会計の実質収支は7億7,426万円の黒字決算となっている。しかし、前年度繰越金を差し引いた単年度収支は3,329万円の赤字となった。

町税などの納付状況は多額の未収金が報告されており、全体的な徴収率を上げて自主財源の確保に向けた努力を強く求めた。

地方債（借金）の現在高は、111億4,350万円で前年と比較して10億2,570万円減少した。基金（貯金）の残高（一般会計の性質の会計をすべて含めた普通会計ベース）は、69億3,855万円で前年と比較して2億4,298万円増加している。

本町の財政構造を見ると、経常収支比率が83.9%と依然として高く硬直化の傾向にあり、財政力指数も0.243と低い率で推移し厳しい状況にあるが、実質公債費比率は11.5%に下降し一時の危機的状況を脱して徐々に改善の傾向となっている。

議会による決算審査の内容を来年度予算編成および役場の運営に反映させるべく意見を付して28年度決算を承認した。



監査委員はこう考える

◆指定管理制度の見直し

平成30年度に行われる指定管理費用改定に伴い、指定管理制度対象事業の是非についても検討し、必要があれば業務委託などへの移行も含めた総合的な見直しを行うこと。

◆指定ごみ袋などの総合的管理

家庭から出る一般廃棄物の処理手数料として指定ごみ袋などを個人および販売店に販売しているが、販売店への手数料支払事務が煩雑化している。

販売手数料事務の簡素化を図ると共に指定ごみ袋などの在庫管理を徹底させること。

◆補助金制度改正の検討

町の施策推進にとって重要な役割を担っている補助金制度を適切に執行するためには、必要に応じて補助金交付規則および関係例規などの改正についても随時検討を行うこと。

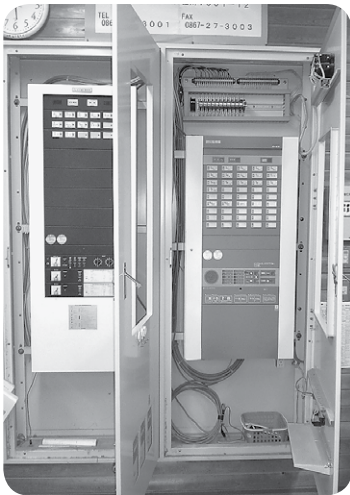
◆滞納整理の適正化

債務者ごとの記録が整理されず、滞納者に対しての催告や訪問徴収など必要な業務が行われないまま時効による不納欠損処理に至るケースは、組織としての債権管理が不十分である。債権管理体制の確立を早急に構築すること。

新たな補助事業がスタート

一般会計補正予算など42件の議案が議決されました。

火災報知器を新設



旭小学校の火災報知器を新しいものに更新する。
〔旭小学校管理費281万円〕

ほほえみの湯にマッサージチェアを設置

ほほえみの湯にマッサージチェアと血圧計を設置する。

〔ほほえみの湯臨時管理費89万円〕



請願・陳情

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2018年度政府予算に係る意見書採択の請願書

岡山県教職員組合久米・苫田支部

支部長 有元 恭志

紹介議員 岩野 正則

山田 雄二

教育水準の向上や教育機会の均等のために必要であり、全会一致で**採択**とした。

美咲町議会議員山本宏治氏所有の喫茶チコの違法建築に関する請願書

美咲町を良くする会

代表 福森 英二

紹介議員 林田 実

参考人を招致し慎重に審議した結果、当該建築物は既に撤去されていることから、全会一致で**不採択**とした。

地方財政の充実・強化を求める陳情書

美咲町職員労働組合

執行委員長 富田 章史

必要な公共サービスを提供するため社会保障予算の充実と地方財政の確立を求めるものであり、全会一致で**採択**とした。

請願・陳情

「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情書

全国森林環境税創設促進議員連盟

会長 板垣 一徳

岡山県では既に県民に対して森林税が導入されているため、全会一致で**趣旨採択**とした。

再犯を防止するための協力雇用主の評価制度を求める陳情書

岡山県保護司会連合会

会長 寺田 光寂

更生保護と再犯防止には協力雇用主の存在が重要であることを理解し、全会一致で**採択**とした。

農業者戸別所得補償制度の復活を求める陳情書

岡山県農民運動連合会

会長 倉地 重夫

稲作農家の経営困難も理解できるが農家の自助努力にも期待し、賛成多数で**趣旨採択**とした。

9月議会

でこんなことが
決まりました

高齢者の安全運転に

9月1日～21日まで定例議会が招集され

高齢者の先進安全自動車購入への補助金

65歳以上の高齢者が先進安全自動車を購入もしくはATワンペダルを整備する際の補助金。
〔交通安全推進費100万円〕



ぶどうハウス等施設整備への補助金

町の特産物のひとつであるぶどうの付加価値を高めるための補助金。
〔産地パワーアップ事業1,562万円〕



意見の分かれた議案

○は賛成 ×は反対 (議長は裁決に加わりません)			松島啓議員	山本議員	岩野議員	江原議員	金谷議員	松田議員	林田議員	左居議員	延原議員	形井議員	松島幸議員	藤井議員	山田議員
陳情第6号	農業者戸別所得補償制度の復活を求める陳情	委員長報告の結果は趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
反対討論 藤井智江議員	農業者の現状を踏まえ、採択した上で国へ意見書を提出すべきである。よって、委員長報告に反対する。				賛成討論 延原正憲議員		農業者自身の経営改善も必要であることから委員長報告に賛成する。								

議員発議

地方財政の充実・強化を求める意見書

社会保障予算の充実と地方財政の確立を目指すため「社会保障予算の確保」や「地方交付税算定のあり方を検討すること」などを求める意見書を日本政府に対して送付した。

教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書

子どもたちのゆたかな学びを保障するため「計画的な教職員定数の改善」と「義務教育国庫負担制度の負担割合を2分の1に還元すること」を求める意見書を日本政府に対して送付した。

「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（道路財特法）」に基づく補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書

29年度末をもつて補助率の高上げ措置が期限を迎える道路財特法について、30年度以降も高上げ措置を継続させ、さらに真に必要な道路については補助率等を拡充するよう求める意見書を日本政府に対して送付した。

委員会 の活動

総務産業常任委員会からの報告

総務産業常任委員会は、総務課、まちづくり課、情報交通課、税務課、上下水道課、産業建設観光課、政策推進室、徴収対策室が所管する予算その他の案件について審議を担当しています。

委員長／山本宏治 副委員長／延原正憲 委員／山田雄二、松島幸一、松田英二、岩野正則、松島 啓の7人で審議しています。

【総務課】

津山圏域消防組合柵原出張所の整備

問 移転場所は決定したか。運用開始はいつからか。

答 柵原病院の北側に移転の用地を確保した。運用開始は、平成31年4月の予定である。

【まちづくり課】

みさきマリッジサポートセンター「え～る美咲」

問 「え～る美咲」はどんな組織で何に取り組むのか。

答 美咲町直営の結婚支援センターで、結婚を希望する男女の出会いから成婚までをいろいろな形で支援していく。

【情報交通課】

高齢者先進安全自動車購入費補助

問 先進安全自動車とは。

答 衝突しそうになると自動的にブレーキがかかる装置やペダル踏み間違い防止装置(ATワンペダル)を搭載した自動車のこと。



本町では、高齢者の交通事故防止策として、先進安全自動車の購入費補助制度の導入を予定している。

先進安全装置を搭載した車の体験研修会に参加し、実際に試乗したところ、安全対策の有効性を確認できた。

【政策推進室】

※リノベーションスタディ亀甲

問 何をねらいとする事業なのか。

答 亀甲商店街の空き店舗などの遊休化した不動産を活用し、公民連携で地域の魅力を向上させる事業である。

【徴収対策室】

悪質滞納者に法的手段の検討実施

問 どういう取り組みをするのか。

答 悪質な滞納者に対し財産調査を行い、差し押さえなど法的手段も行使し滞納整理に取り組む。

【産業建設観光課】

柵原地域に公衆トイレの設置

問 場所および設置後の管理は。

答 県道勝央仁堀中線沿線のアグリ直売所の隣地に建築し、管理は外部委託の予定。

※リノベーション…既存のものに手を加えてよくすること。再生。修復。

視察調査報告▶近代化産業遺産を生かしたまちづくり・小坂町



鉱山の町、古き友情を温めて

秋田県鹿角郡小坂町は、県北東部に位置する人口約5,300人の町である。

明治・大正・昭和にかけて小坂鉱山から採掘される金・銀などの鉱山資源で栄えた町であり、全盛期には2万人を越える人口を誇る時期もあった。

その後、小坂鉱山も経営規模を縮小し、現在では家電製品や携帯電話から金属を取り出すリサイクル産業へと転換を図っている。

【視察の目的】

●小坂町は本町と同様に鉱山で栄えた町であり、十和田湖の大自然と小坂鉱山の産業遺産を生かした観光産業による町の振興に取り組んでいる先進地でもある。

観光産業育成は本町の重要施策の一つであり、自然を生かした棚田や75年の歴史を持つ柵原鉱山の産業遺産をさらなる観光資源として生かすため、今回視察地として選定した。

【まちづくりの方針】

●町が産業遺産を活用したまちづくりを行う理由は、町の定住人口が年々減少していることに危機感を持ったからである。

●小坂鉱山の閉山などの影響により労働者数が年々減少し、町民だけの力で地域を活性化することが難しくなってきた。観光客を誘致し、町民との交流を図ることで地域活性化を目指し、明治期の風格を残した近代化産業遺産を観光資源として活用したまちづくりに取り組んでいる。

●「小坂鉄道レールパーク」は、町民の移動手段として活躍した小坂鉄道を鉄道遺産としてよみがえらせたもので、当時の懐かしい雰囲気を楽しめる。

【参加者の感想】

●小坂町では古き良きものは移転・修復などを行い遺産として残し、不要なものは極力処分し、明治期の堂々たる近代化産業遺産を観光資源として活用したまちづくりの手法には感心させられた。

●「小坂鉄道レールパーク」では、車両の車庫が全面屋根付きで整備されているが、本町の柵原ふれあい鉱山公園では車庫の一部にしか屋根がなく、保存の違いを痛感した。

【本町における取り組み】

●国の「マイロード事業」や県の「明治百年通りにぎわい創出事業」により小坂町の整備は進んだ。本町も、国や県の動向に注意を払い、活用できるものを取ってくる食欲さを持たねばならない。

今回の視察調査に基づいて、町執行部に対し提言を行います。内容は次回51号に掲載します。



風格ある小坂鉱山事務所

委員会 の活動

民生・教育常任委員会からの報告

民生・教育常任委員会は、住民課、健康福祉課、こども課、福祉事務所、教育総務課、生涯学習課が所管する予算その他の案件について審議を担当しています。

委員長／金谷高子 副委員長／形井 圓 委員／藤井智江、左居喜次、林田 実、江原耕司、貝阿彌幸善の7人で審議しています。

【住民課】 マイバッグの推進

問 マイバッグの推進で平成29年度は旭地域に配布することだが将来的には全町に配布を考えているか。

答 マイバッグを持つことによりごみの減量の啓発につながる。全町に配布していきたい。

【健康福祉課】 介護保険事業

問 平成28年度からの繰り越し金が出ている。第7期の計画で保険料は下がるのか。

答 平成29年度も今のところ健全な運営ができている。7期の計画の中で検討していく。

【こども課】 ロールスクリーン設置

問 中央かめっこ保育園にロールスクリーンを設置するのはなぜか。

答 日光の照射により、廊下が劣化して、危険な状態であるため。



今年7月末に中央総合体育館の天井から金具が落下したため、修繕工事を行った。

施工業者から説明を受け、現場を確認した。

【福祉事務所】 緊急通報装置設置

問 設置をするのに民生委員の申請が必要なのか。設置費用の個人負担は。

答 申請の中に民生委員の意見書が必要。低所得世帯については設置費用の個人負担不要。

【教育総務課】 学力状況調査

問 調査結果を受けて、教育委員会は学校に適切な指導をしているのか。

答 各学校が授業改善の計画を作成し、研修会や授業研究会を実施して定期的に情報交換をしている。

【生涯学習課】 中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業

問 本町が県に申請した全ての事業が採択されたとのことだが内容は。

答 境神社の獅子舞など伝統芸能を伝承する体験学習と、林業についての体験学習を実施する。

視察調査報告 ▶ 笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角

秋田県鹿角市は、昭和47年4月1日に花輪町・十和田町・尾去沢町・八幡平村が合併。

人口31,779人、高齢化率37・66%。

恵まれたスキー環境と古くからの駅伝への取り組みを活かし『スキーと駅伝の町鹿角』として、スポーツによるまちづくりをしている。

鹿角市地域生き活きサロン（平成24年からスタート）の取り組みについて視察を行った。

【視察の目的】

鹿角市は高齢化・核家族化が進み、高齢者が引きこもりがちになると要介護状態に陥りやすいので、地域ボランティアにより身近で気軽に集まることのできる場所を確保し、高齢者の社会的孤立感の解消や心身の健康維持および要介護状態の予防ならびに地域内での支えあい体制の確立が進んでいる地域である。

●本町も少子高齢化が進み独居の高齢者も増



高齢者福祉の先進地に学ぶ

えている中で一人でも多くの人が集える場として「通いの場」を進めている。しかし取り組みに苦慮しており、鹿角市での取り組みを学ぶため、今回視察をした。

【事業の内容】

●鹿角市では、高齢社会に危機感を持った人が自主的にサロンを立ち上げ、スポーツやおしゃべり、料理などを楽しんでいる。

サロンの代表者に準備などの負担が偏らないように工夫している。

・活動拠点整備
補助対象経費の10割（上限30万円）

・運営事業費

初年度立ち上げ費用のうち補助対象経費の10割（上限10万円）
・サロン開催1回あたり1,200円など。

●補助対象者は主に団体（自治会等）または個人。

開催頻度は原則として週1回以上（年40回



出前講座でサロンも活発

以上）で開催時間は2時間以上としている。

現在、自治会16カ所、個人3カ所が、自治会館、個人宅、空き店舗、公共施設などでサロンを開催している。

【参加者の感想】

●鹿角市では事務の代行など、サロン組織への柔軟な対応がとられており、住民による運営がより進めやすいものと感じた。

今後の課題として、一人暮らしの男性の参加者が少ないので、

思案している。この点は本町も同様である。

また、「どこさデモ」という出前講座を市民の要請により開催している。これは、市民と行政が共に学び、共に考える機会を提供するものであり、本町でも行政サービスの一環として行うべきである。

今回の視察調査に基づいて、町執行部に対し提言を行います。内容は次回51号に掲載いたします。

委員会 の活動

【執行部に対して意見を付す】

《税に関すること》

未収金の回収に際して滞納者に対する直接訪問がまったく行われていない状況がある。徴収業務の一部分とはいえ本来の業務がこなせていなかったという事実は職務怠慢のそしりを受けてもまぬがれることはできない。

今からでも職員による直接訪問を行い、町民との信頼関係を構築する体制を早急に確立することが急務である。

特に来年度から県が一元管理する国民健康保険税は未収金額が保険税に影響してくることを念頭に置き、保険税の抑制を図る努力が必要である。

《業務の効率化に関すること》

課の統廃合による業務の効率化を目指しているが、煩雑化・広範化する業務内容や目まぐるしく変化する政策を一体的に管理する上において、1人の所属長が全てを監督するのはやはり無理がある。

日々の業務をこなすだけのオーバーワーク状態をこのまま続ければ、かえって非効率となり住民サービスの低下を招きかねない。

専門的な分野の中で業務の効率化・省力化を図る方向にシフトチェンジする考え方を持って課の再編成を検討する必要がある。



決算認定特別委員会からの報告書を基にまとめた議会からの要望書を貝阿彌議長・松島(啓)副議長から定本町長へ提出した。

《規範意識の徹底に関すること》

行政の法律である条例や行政の法令ともいえる要綱などについては全職員が熟知していなければならない。

しかし、現状において提出される議案の内容や日々行われている業務の内容などに大きな疑問を抱く事案が発生している。

公金の支出や業務の遂行にあたっては、条例・要綱などに沿った対応が確実にできているかどうかを確認できる体制と規範意識の徹底を行政全体で構築しなければならない。そのためには現在の例規集全体の総点検を早急 to 実施する必要がある。

《みさきネット事業に関すること》

本町の通信インフラである「みさきネット事業」は、開始から10年が経過し、機器の老朽化、通信線路の支障、さらには業界の進展による通信形態の変化などにより事業全体の更新時期を迎えている。

町民の生活基盤ともなっている通信施設は年を経るごとに目まぐるしい成長を遂げており、時代の変化に対応していかなければならない。

あらゆる面から将来的な状況を予測した上で年次的な計画を策定し、必要な予算を手当てしてでも早急な施設更新整備が必要である。

決算認定特別委員会からの報告

決算認定特別委員会は、議会が承認した予算が適正に執行されているかを確認するため、全ての課が所管する決算について審議を担当しています。

委員長／松田英二 副委員長／松島幸一 ほかに全議員を委員とする14人で審議しています。

【執行部に対して意見を付す】

《水道事業の改善に関すること》

本町の水道事業においては大量の漏水が発生している。

11簡易水道事業の有収率の平均は81.62%であるが、中央簡易水道、西川簡易水道、柵原北部簡易水道などでは年々数値が低下し、特に柵原北部簡易水道の有収率は60%を切っている現況である。

あきらかな税金の無駄使いであり、この状況のまま公営企業会計化に移行後水道料金の値上げをお願いしても到底住民の理解を得ることはできない。

相当の予算を手当てしてでも精度の高い漏水調査を実施し、早急な改善策を講じなければならない。

《義務教育学校に関すること》

柵原地域学校建設検討委員会からの答申を受けて早くも半年の歳月が経過している。この間教育委員会の動きがまったく見えてこない。

義務教育学校新設に対する考え方を町執行部および教育委員会で早急にまとめ、議会の承認と協力を求め3者が一体となって住民に協力をお願いする体制を整えなければ前に進むものも進まなくなってしまう。

また、現段階では柵原地域限定となっているが、旭地域の現状を踏まえれば町内全域の教育方針に対する方向性を示すべき時期にきている。



決算認定特別委員会からの指摘事項125項目を取りまとめた報告書を松田委員長・松島(幸)副委員長から貝阿彌議長へ提出した。

《介護保険料の抑制に関すること》

平成27年度からの第6期介護保険事業計画より本町の介護保険料は県内で一番高い保険料となった。

議会がこれを承認した理由は第5期計画における県からの借入金返済にあった。

第6期計画の収支は29年度決算を見極めなければならないが、借入金の返済が順調に進み、円滑な事業運営が見込めると判断できれば、第7期介護保険事業計画における介護保険料については極力抑制する方向での検討を強く望むものである。

《新たな産業の創出に関すること》

本町が模索している再生可能エネルギー創出事業は、中山間地域の課題に立ち向かう上で有効かつ重要な事業である。

ことにバイオマスの活用は、林業や製材業といった地場産業を活性化させ、さらに新規事業への道を切り拓くための一つの起爆剤となる要素を秘めている。

国・県や電力市場の動向を注視しながら各方面への積極的な活動を展開し、一刻も早い事業実施に向けて努力を傾注しなければならない。

議会費あれこれ

◎ どれくらいお金がかかっているの？

A 議会運営にはこのくらいかかっています。

項 目	金 額
議員人件費	6,155万9,574円
一般職員人件費	1,255万9,034円
経常管理費	652万4,557円 (議長交際費22万7,600円を含む)
各種負担金 (退職議員の年金など)	2,481万6,066円
合計	1億545万9,220円

◎ 報酬ってどれくらい？

A 月額報酬は次のとおりです。

議 長	31万5,000円
副議長	26万2,000円
常任委員長	24万6,000円
議 員	24万円

◎ 何日くらい活動しているの？

A 年間の活動日数です。

議 長	272日 (町外・県外を含む)
副議長	141日 (町外・県外を含む)
議 員 (議長・副議長を除く12人)	平均122日 (町外・県外を含む)

各議員によって異なりますが、表記の数字に各地域行事への参加日数が加算されることになります。

※表記の報酬に加えて期末手当を6月に1.45ヶ月分と12月に1.65ヶ月分支給しています。

※議会だより編集委員6人には年額4万円(委員長は5万円)を支給しています。

※議会選出の監査委員1人には、出頭日数×7,400円を支給しています。

◆他の市町村議会が支給している政務活動費・委員会手当などは支給していません。

町政を問う

一般質問は町民を代表し、

町長・教育長などに

町の方針や施策を問います。

ページ	議員名	質問内容
18	延原 正憲	1. 有害鳥獣駆除の有効な推進策は 2. ふるさと納税の返礼品の見直しは
19	岩野 正則	1. 危険家屋への対応基準は 2. 町史の活用方法は ◇ 新規分譲地の建設を
20	松島 幸一	1. 本町の防災への考えは 2. 特定型ふるさと納税制度の導入を
21	山田 雄二	1. 地域の声を学校建設に活かす 2. 美作岡山道路で地元説明はあったか ◇ 住民にとって行政が身近に感じられる工夫は
22	松島 啓	1. 豪雨・土砂災害の未然防止策を早急に 2. データ分析を徹底して人口減少対策を
23	金谷 高子	1. ヘルプカードなどの導入を 2. 美咲町版「ネウボラ」の導入を ◇ セルフネグレクトへの対応は ◇ 地域の防災力強化を

ページ	議員名	質問内容
24	山本 宏治	1. 災害時の行政の対応は 2. Jアラートへの対応は
25	藤井 智江	1. 非核宣言自治体協議会に加盟を 2. 介護保険料は引き下げるべきだ ◇ 国民健康保険税の引き下げを ◇ 学校給食費の無償化の実現を ◇ 高齢者黄福給付金の給付を
26	形井 圓	1. 中学校の部活動の要望は反映されているか 2. 通学路は安全になったか ◇ 有害鳥獣への対応は
27	松田 英二	1. 町道改良率の向上に向けた対策は

議会だよりには、2問まで掲載
しています。
掲載できなかった質問は◇で
表示しています。



有害鳥獣駆除の 有効な推進策は

町政を問う

一般質問

延原正憲 議員



侵入防止から駆除の方向へ



問 イノシシ・シカなど有害鳥獣による農作物被害が増加しており、深刻な事態となっている。

侵入防止の防護柵での対応だけでなく、個体数を減らす有効な推進策が重要となる。

①有害鳥獣の駆除数は、②美咲町鳥獣被害防止計画の検証は、③新規狩猟免許取得者支援策は、④駆除鳥獣の食肉処理施設の設置は。



答 課長 ①28年度の駆除頭数はイノシシ1,080頭、ニホンジカ158頭、ヌートリア18匹の合計1,256頭。

②29年度分まで策定しており、実績を踏まえて次期計画を策定したい。

③狩猟免許取得補助金や講習会受講費助成などを実施し、新規狩猟者の増加を図る。

平成28年度有害鳥獣駆除頭数

地域	イノシシ	シカ	ヌートリア
中央	388	6	5
旭	342	4	8
柵原	350	148	5
美咲町計	1080	158	18



答 定本町長

④食肉処理施設の単独運営には多くの課題がある。近隣市町村との協働連携の検討が必要である。

③侵入防止対策から駆除対策に方向づけをしたい。

④駆除鳥獣の食肉処理施設については、津山圏域での対応方針を進めたい。



ふるさと納税の 返礼品の見直しは



今年11月から3割以内へ



問 ふるさと納税の過剰な返礼品競争が社会問題となっている。

①寄附件数と金額の推移は、②寄附金の使途指定の状況は、③返礼品発送管理業者への委託料は、④返礼品の見直し作業と実施時期は、⑤心の通う返礼品の検討は。



答 桑元総務課長

①26年度からの推移は表のとおりで、業

寄附件数および金額の推移

年 度	寄附件数	寄附金額
平成26年度	16件	233万円
平成27年度	68件	303万円
平成28年度	992件	1,575万円
平成29年度 (7月末)	284件	708万円



答 定本町長

者委託した28年度から大幅に増加している。

②寄附者に7項目から選択してもらっているが、「町長に一任」が約4割となっている。

③委託料は寄附金総額の10%プラス消費税。

④10月末をめどに現行の4割から3割以内へ変更する。

⑤ふるさと納税制度の趣旨を踏まえ対応していきたい。



危険家屋への対応基準は

質問

まず特定空き家の認定から

答弁



あぶない！

※特定空き家…「放置することが保安上危険、衛生上有害な状態にある空き家」

問 本町では危険家屋が大変増えている。対応基準を示せ。

答 煙尾まちづくり課長 本町では空き家対策計画およびガイドラインを策定している。

まず、特定空き家の認定を行い、助言、指導、勧告、命令、最後に代執行を明記して進めていくことになる。空き家問題で一番大変なことは所有者、相続人の確定ができないことである。情報提供により調査を行い、所有者を調べて空き家解消に向けて

の通知をするため時間がかかる。

空き家対策計画策定のメリットは明確な基準と対策協議会の意見に基づく特定空き家の認定により公平な判断ができることである。

現在、890軒空き家があるが情報提供をいただきしっかりと調査を進めていきたい。

答 定本町長

空き家所有者の確定が難しくネックとなっている。法律が整い、環境づくりをしていかなければならない。

質問

町史の活用方法は

答弁

過去をひもとき 新しい町づくりに

問

①町史編さん作業の現在の状況は。
②町史発刊後の活用方法は。また、活用に向けた取り組みの計画はあるか。

答 立石生涯学習課長

①民俗編は校正作業に細心の注意を払って取り組んでいる。
10月中旬に印刷ができ上がる見通しである。

地区誌編は年度内に完成する見込みである。
通史、資料編についても年度内に完了する見通しである。

②町の広報紙で発刊のお知らせを行う。
旧中央町に関する歴史文献であり、多くの方にご覧いただき、旧町の長い歴史を振り返

答 柴原教育長

②町史の有効活用について、「亀甲」というまちが、なぜ駅を中心に発展してきたのか、国道53号が開通して人の流れはどう変わったか、土地利用のこつとや、商店が並んだいきさつなどをひもといていくことで、新しいまちづくりに向けた施策を練っていくうえでも大きな参考になるのではないかと。



たくさんの資料と格闘中

質問 本町の防災への考えは

町政を問う

一般質問

松島幸一 議員

答弁 自主防災組織の活動が重要である



もっと必要！福祉避難所

問 一次避難所で過ごすことが困難な高齢者や障がい者、妊婦など「災害時要配慮者」を受け入れる福祉避難所は何か所か。

答 桑元総務課長 福祉避難所は中央地域の養護老人ホーム静香園のみだが、各地域に1カ所は設置できるように検討する。各種団体や組織との

問 また、避難所となる公共施設には、老朽化した施設や耐震化が必要とされる施設も多々ある。主要な施設から安全対策を講じるべきではないか。

答 桑元総務課長 活動実態により地区の防災能力は大きく異なる。自助・共助・互助・公助の考えを常に持って災害に備えることが大切である。

問 防災についての町長の考えは。

答 定本町長 自主防災組織の

質問

特定型ふるさと納税制度の導入を

答弁 研究し検討を進めたい

問

ふるさと納税制度には寄附金の使用を限定する特定型や、特定事業に賛同する企業から寄附を募る企業版の制度があり、多くの自治体でも取り組みが行われている。財源確保が難しい中で、本町が今後取り組みべき事業を明確にし、地方創生に沿った魅力的な事業を考えることにより全国の企業や個人にふるさと納税という形で応援してもらった仕組みづくりが考えられる。

特定型や企業版のふるさと納税制度を本町

答

桑元総務課長 特定型の制度については寄附金の使用目的をもっと明確にするものであり今後検討したい。

答

岡部副町長 特定型また企業版のふるさと納税制度は本町の政策や魅力をアピールする上でも大きく発信できるため、研究・検討を行い前に進めていけたらと考えている。

平成28年度ふるさと納税寄附状況

寄附者が望む用途	件数	寄附額
(1)ひとが活きる、美咲町のしごとづくり	122件	232万円
(2)ひとが集う魅力づくりと定住促進	49件	57万円
(3)結婚・子育てへの支援と教育で選ばれるまちの実現	248件	357万円
(4)いくつになっても元気でいられる健康づくり	64件	68万円
(5)安全・安心な暮らしと生活支援の推進	70件	72万円
(6)公共施設や空き家等の資源集約と活用	23件	24万円
(7)町長に一任する	392件	741万円
上記いづれにも指定なかったもの	24件	24万円
合 計	992件	1,575万円

地域の声を 学校建設に活かす

質問

方向性を定めた後に
説明会を実施

答弁



問

義務教育学校の創設に向けた新たな検討委員会は、その後どうなっているか。保護者や地域への説明が遅れている。地域住民の声を聞く場を早く持つべきではないか。

答

柴原教育長

新たな検討委員会は間もなく開催予定である。整備計画の立案やここだという場所の絞り込みをしていく。7月27日柵原地域PTA合同懇談会のあいさつで、現在までの状況を説明した。地元説明は、ある程度具体的な方向性を定



新たな検討委員会に大きな期待

問

新たな検討委員会で具体的な方向性や場所が決まっていきたい。

例えば、その決まったところを理解してくれということになる。これからの子どもにどういう力をつけていきたいか住民の思いを集約することが大切だ。もっと、地域の声を基本計画に活かすことはできないか。

答

柴原教育長

ある程度具体的な方向性を示し、地域住民の意見を伺いながら進めていきたい。

質問

美作岡山道路で
地元説明はあったか

答弁

旧柵原町時代に
ルート問題は済んでいる

問

飯岡地区の滝谷池の改修計画は、どうなっているか。

答

前田柵原総合支所
産業建設課長

堤防決壊の原因となる漏水を止める部分改修を地元にて提案したが、県・町・地元水利組合の協議の結果、全面改修の要望書が提出されたので、部分改修の事業自体を取り下げた。

問

平成15年6月の旧柵原町議会で「美作岡山道路の地元説明はもう少し先になる」とあるが、その後

答

前田柵原総合支所
産業建設課長

地元説明はあったか。平成15年6月に県から首長にルート案が示され、同年9月議会では、旧柵原町時代に250メートル幅で決まっている。ルートの問題はそこで済んでいると認識している。

答

定本町長
ルートについて



安全対策が確認できた飯岡滝谷池



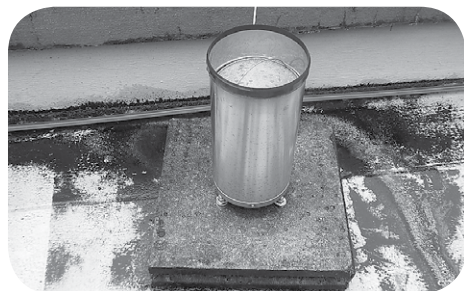
豪雨・土砂災害の 未然防止策を早急に

町政を問う
一般質問

松島 啓 議員



答弁 補助金交付要綱を検討する



気象データが命を守る(雨量計)



問 全国各地で豪雨災害が相次いでいる。本町でも8月に旭地域で4年前に続き土砂災害が発生した。

①災害の状況は。

②雨量計の増設を。

③砂防工事の進捗状況は。

④真庭市の補助金交付規程などを参考に、災害の未然防止策に取り組むべきではないか。



答 課長 国宗産業建設観光課長

①7、8月の3日間の豪雨で、農林・公共災害合わせて39件、約8千万円の被害額であった。(9月13日現在)

査定後、早期復旧に努める。

②雨量計の設置は、県に要望していく。

答 山本旭総合支所産業建設課長

③町内5カ所で事業化されている。

旭地域では昨年度栃原地区が完成した。現在、南地区の工事道路を整備中で、来年度には砂防ダム本体工事に着手する予定である。



答 定本町長

④災害から住居を守り、安心して生活できるよう補助金交付要綱を検討していきたい。



データ分析を徹底して 人口減少対策を



答弁 将来を見据えた施策を行う



問 人口減少対策は、本町の最重要課題である。その中でも人口構成に課題があり、地域差も大きい。国、県とも連携し、さまざまなデータ分析を行い、対策を講ずるべきではないか。

モデル地区を選定し、地域と行政の協働で対策を考えてはどうか。

過疎地の若者の雇用確保と農林水産、建設、福祉などの地元産業に若い人材を派遣し、定住促進につなげる支援制度を国が検討している。

町としても国の動向を注視しながら、働きかけを行つべきではないか。



答 煙尾まちづくり課長 人口減少対策については、インフラ整備や、社会福祉などの取り組みが必要である。平成18年度より協働のまちづくり事業に取り組んできた。今後、地域のあり方を検証していきたい。

国が検討している過疎地域の雇用確保の制度など、積極的に取り組みたい。



答 定本町長

データのなかで地域の稼ぐ力が弱点となっており、企業誘致など働きかけている。今後、将来を見据えた施策を行いたい。



人が集まるまちへ

町政を問う

一般質問

金谷高子 議員



ヘルプカードなどの導入を

質問

導入に向け最大限の努力をする

答弁



ヘルプカード



ヘルプマーク

問

障がいや難病などの人が、緊急連絡先や必要な支援を記載し、災害時や日常生活の中で困った時に提示することで周囲の配慮や手助けを求めやすくするヘルプカード。

手助けが必要な人と手助けをする人をつなぐ大切なかけ橋となるヘルプマーク。
自ら困ったと伝えられない人、困っていることを自覚できない人もいる。また、どう支援していいかわからない人たちのために、ヘルプカード、ヘルプマークの導入を町として

答

もぜひ実現をすべきである。

稲谷福祉事務所長
1市3町（津山市・鏡野町・久米南町・美咲町）で障がい者の地域生活を支援する目的で津山地域自立支援協議会を設置している。

この協議会の中でヘルプカード・ヘルプマークの作成についての検討を始めようとしている。
このヘルプカード・ヘルプマークはとも有効な手段であり、導入に向けて最大限の努力をしていく。

質問

美咲町版「ネウボラ」の導入を

答弁

子育て世代包括支援センターで検討

問

子育て世代包括支援センターが法定化された。市町村には努力義務があると定められているが、本町の状況は。

日本版「ネウボラ」

は個人や家族に対して支援するもので、妊娠から切れ目のない関わり、子育て期間の悩みを初期から予防することにより少子化対策や虐待防止につながる。本町の考えは。

答

牧野こども課長

こども課と健康福祉課が共同で、妊娠初期から子育て期間にわたるまで、総合的に相談支援を提供する、子育て世代包括支援センターの立ち上げを検討している。



大きくなるまで見守ってね

このセンターの設置はワンストップ拠点を立ち上げ、切れ目のない支援を実施することを目指すものである。子育て世代包括支援センターを立ち上げることで、日本版「ネウボラ」の目的である妊娠から子育てまでの窓口をひとつにして、拠点にプロを配置、医療、福祉の連携、家庭環境における問題の早期発見などを実現できると考えている。

ボラ」の目的である妊娠から子育てまでの窓口をひとつにして、拠点にプロを配置、医療、福祉の連携、家庭環境における問題の早期発見などを実現できると考えている。

質問

災害時の行政の対応は

町政を問う

一般質問

山本宏治 議員

答弁

班体制で緊急時の対応をしている



問

災害時における行政の対応として本庁と支所の組織体制はどのようになっているのか。

警報などの発令時は早急な告知放送が必要ではないか。

答

桑元総務課長

職員は本庁および両支所で注意態勢、警戒態勢、特別警戒態勢、非常態勢の4段階に分けて3班体制で判断をし、対応している。勤務時間外においても同様の体制で参集している。

告知放送は、注意喚起をする内容や、緊急の内容など、状況に



災害情報の早急な告知を

答

岡部副町長

じた判断が大切である。職員初動マニュアルを活用して図上訓練など有事に備えている。

また、今後の検討事項として災害発生時には該

当地域の局地的な災害

なのか、町全体におよ

び災害なのか、臨機応変に

判断して対策本部を設

置することが必要である。

答

矢木旭総合支所長

8月の集中豪雨では旭総合支所は全職員で電話対応や避難所開設、被害の現場確認など対応をした。

今後も初動体制など調整が必要である。

質問

Jアラートへの対応は

答弁

普段から避難場所などの確認を

問

国際情勢の緊張により中国地方も

飛翔体の対象地域であり今後危機管理の中で緊迫してくると思われる。Jアラート(全国瞬時警報システム)への対応は。

答

桑元総務課長

本町ではJアラートを告知放送端末で流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせするとともに、職員は特別参集の体制を取る。

自主防災組織でも普段から避難場所などの確認をしてほしい。

答

柴原教育長

小・中学校とも校長会などで対応について十分に検討をし、児童・生徒の安全を最優先に考えている。

答

牧野こども課長

保育園では、あらゆる災害に対する避難訓練を定期的に行っている。

答

定本町長

各自防災対策をしていただくことが基本である。

行政としては、最悪の事態を想定し、その都度危機管理体制に基づいて役割を果たしていきたい。



求められる危機管理の充実
(全国瞬時警報システム)

町政を問う

一般質問

藤井智江 議員



非核宣言自治体協議会に 加盟を

質問

優先すべきものを
精いっぱい努力する

答弁

また、平和宣言看板を各総合支所、本庁周辺に設置してはどうか。日本政府が核兵器禁止条約に背を向けて

町民こそつて平和を願ひ、内外にその意思を表明し、平和な世界、平和な日本を築くために、日本非核宣言自治体協議会に加盟すべきである。

問 本町は、平成18年3月17日に「非核・平和美咲町宣言」を採択し、日本非核宣言を平成19年12月21日に議決しているが、日本非核宣言自治体協議会への加盟ができていない。

安全・安心で平和なまちづくりを願うのはもちろんである。核兵器に賛成するものではない。

看板については、先ず議会の同意を得て、議会から提案いただきたい。

答 定本町長 日本非核宣言自治体協議会に加盟している自治体は、岡山県では岡山市、勝央町、新庄村の3自治体であり、多様化した住民要望の中で優先すべきものを精いっぱい努力している。



平和への願いをこめて

問 介護保険適正化の指導を受けた効

答 今後、被保険者数の推計やサービス見込み量の推計などを調査・集計して素案を示し、県および介護保険事業計画策定委員会の意見を受けて第7期の保険料を設定していく。



みんなで支える介護サービス

答 借金が解消できていれば第7期介護保険料については引き下げるべきと考えるがどうか。

答 現時点ではまだ確保できていない。

問 事業は、第5期計画において約9,000万円の借金が必要となり、これを返済するため第6期計画で介護保険料の大幅な値上げに踏み切った。

答 昨年度はある程度給付も下がり、効果が表れていると思われる。

問 新に緩和型サービスが導入されたが、登録事業者は確保できたか。

答弁

県や委員会の意見を受けて設定する

質問

介護保険料は引き下げるべきだ

質問

中学校の部活動の要望は反映されているか

町政を問う

一般質問

石井 圓 議員

答弁

要望を考慮し実施している



問

町内の各中学校における部活動の現状は。

部の設置に生徒や保護者の要望は取り入れられているか。部の設置条件はあるか。

また、顧問の先生は、休日返上で指導されている。勤務実態は把握しているか。休日の指導に手当などは支給されているか。校内で指導者のいない部において外部指導はお願いできないか。

答

石戸教育総務課長

部活動は、中学校学習指導要領に基づき、生徒の自主的、自発的な参加により地域や

学校の実態に応じて行うとされており、中央中学校9部、旭中学校4部、柵原中学校8部で活動している。

答

柴原教育長

部の設置は、各中学校において、他の教育活動との関連や、指導者、担当者の有無、生徒や保護者の要望などを考慮しながら部活動を可能な範囲で実施している。

少なくとも年1回は設置希望をとり、要望に反映されている。手当は、条件を満たせば支給している。

外部指導者については依頼できる。



中学校でもやりたい剣道部

質問

通学路は安全になったか

答弁

地元調整をしている

問

子ども議会が6月13日に開催され、執行部からも明かな回答がなされていたが、質問に対し事業対応や、予算措置ができていないものがあるか。

特に「通学路をもつと安全に」との質問に対し「自転車歩行者道として、今年度測量・設計を行います」と回答しているが、この県道久米中央線については、大変危険である。

再度この場所の事業進捗状況、完成予定年度を示してほしい。

また、防犯灯の設置要望に対し「防犯灯の設置は、地元自治会にお願いしなければなりません」と回答している。

せん」と回答している。自治会に対しこの要望を伝えているか。

通学路の安全を守るのには、行政の責務ではないか。

答

國宗産業建設観光課長

県道久米中央線の歩道の設置は、県が実施測量をするため、地元調整をして欲しいとのことである。完成年度はまだわからない。

答

畑尾まちづくり課長

防犯灯については、補助金の交付制度を活用し、自治会で地域の状況を考えて設置をしている状況である。



待たれる自転車・歩行者道の整備

町政を問う

一般質問

松田英二 議員

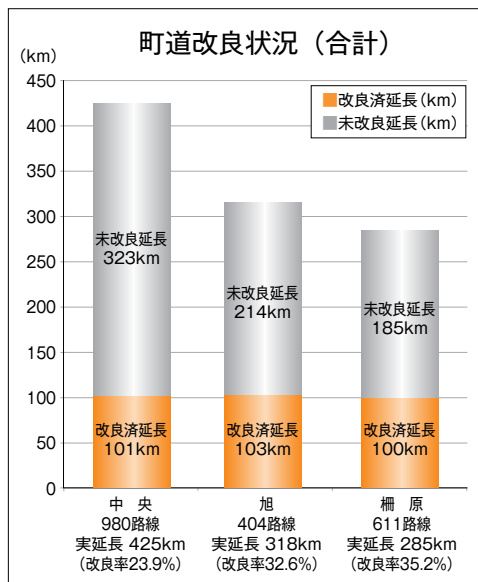


町道改良率の向上に向けた対策は

質問

支障木伐採なども含めて
努力する

答弁



問 町内の道路現況調査を見ると、本町の町道改良率は全体で29・5%と低い率で推移している。

答 課長

これまでは集落間を結ぶ1級・2級の主要道路から改良工事を進めていたが、その他町道においても地区内で重要な道路について効果的

問 緊急車両が設備増強により大型化している中、災害対応や医療福祉の面からも町道拡幅などが求められている。相応の予算を投じてでも対応を急ぐべきである。

答 定本町長

な計画を推進していく。また、それと並行して町道の法面崩壊の防止、支障木伐採などが重要となってくるため、これらを含めた予算の確保に努力していく。

これまででは集落間を結ぶ1級・2級の主要道路から改良工事を進めていたが、その他町道においても地区内で重要な道路について効果的

表紙の紹介

～久木地区運動会～

10月8日、柵原西保育園グラウンドで、久木地区の運動会が開催されました。爽やかな秋晴れの中、地区のみなさんが汗をかき、楽しく交流されていました。



『地方創生』は議会だよりから

～議員力を磨く広報作法&クリニック～

10月6日、岡山県町村議会広報研修会が開催されました。研修ではユニークなワークショップに続き新聞を読む人は投票率が高いことを例に挙げ、「議会広報を読むことが町への関心を生み、投票率が向上し地方創生につながる。」など議会広報の重要性を指摘。



平成17年3月22日三町が合併し美咲町が誕生いたしました。そして、同年8月「美咲町議会だより」創刊号が発刊、以来12年半が経過し、議会だよりも50号を迎える運びとなりました。

合併当時1万7千475人（平成17年3月末）だった人口が現在では1万4千611人（平成29年10月1日現在）となり、残念ながら減少の二途をたどっています。

定住促進を目指し、魅力ある町づくりに向けて町民の皆さんにお話を伺いました。

魅力ある町



こんな美咲町に



町の魅力は地域の人柄

地縁を頼って家族5人で美咲町に引っ越してきて3年が過ぎようとしています。

それ迄オーストラリアでの海外生活を続けていたこともあり、移住に際して一番気がかりだったのが地域の皆さんに溶け込めるのだろうかという不安感でした。ところが、案ずるよりも何とやらで、移住してきて間もない頃から皆さんにとっても親切に接していただき感謝しています。

このような地域の人柄こそが美咲町の一番の魅力であるというのを広くアピールすることが定住にも繋がるものと感じています。

欲を言えばもっとたくさんさんの職場があると良いですね。

松本 あさ子さん



交流やつながりのある町

「美咲町議会だより」創刊50号、おめでとうございます。

合併当時はあまり3町の繋がりを感ぜませんでした。結婚して子どもが産まれ、子育て支援センターや親子クラブの行事などに参加するようになると、この活動が私と地域のかげ橋となり、ママさん達や地域の方々と交流が広がりました。そこで改めて3町の繋がりを実感しました。

西本 美保子さん



「心」を育てる町づくり

私は打穴中で子供の頃から暮らしています。今では結婚し子供も生まれ楽しく過ごしています。

合併から十数年経ち、町のイメージも固まってきており、子供を持つ世代としては子育て支援や定住促進、15歳までの医療費無料など、ありがたい制度があり助かっています。

町民からは「こんな政策は続けてほしい」「新しく作ってほしい」と様々な声があると思います。そ



岸本 敬太さん

若者が明日を語れる町

魅力感とか幸せ感、人各々異なるもので一口には語れない。少子高齢化時代の中で若者の定住促進がまちづくりの一つであろう。私も80歳目前に高齢対策、高齢福祉等々お世話になってはいます。が、それ以上に若者定住は必要であり明日を語るまちづくりの基本であろう。その為の方法対策は当事者の若者に聞くのが最良だ。子育て、教育、買物、就労の



西本 和馬さん

子どもがのびのび育つ町

美咲町に嫁いで、文化や習慣の違いに戸惑うこともあり、全てが順風満帆だったとはいえないが、初めて田植えをし、稲刈りを経験し、農業をする楽しみ、母親になれたこと、様々な出会いが、今の私を形成させてくれたと思っています。

民生主任児童委員を担わせていただいたことも大きいです。町の人の素晴らしさと、課題が複雑で多岐にわたること、両方が垣間見えたように思います。今の子どもたち



岡部 真理さん

- 
- ①途中出たが帰って来た
 - ②各地区で催し物が行われ積極的に参加している
 - ③高齢になってもいろいろな行事に参加する
 - ④活性化
 - ⑤はい

(70代・女性)

皆さんにおたづねしました

- ①いつから美咲町に住んでいますか
- ②美咲町の魅力（良いところ）は
- ③美咲町の魅力づくりにあなたができることは
- ④行政に何を求めますか
- ⑤これからも美咲町に住みますか

(年代・性別)

町への想い ここに咲け

- ①生れたときから
- ②自然が多く住みやすい
- ③町や地域の行事に参加する
- ④介護保険を安くして
- ⑤住み続けます

(70代・男性)

- ①途中出たが仕事の関係で戻って来た
- ②独自の地域色を出そうとしている
- ③住み良さを実感し伝える
- ④多種多様な意見に耳を傾け施策に取り組む
- ⑤転勤が決まれば離れる

(20代・女性)

- ①9年前から
- ②人が優しく子育てしやすい
- ③人を呼び込めるようなイベントを開きたい
- ④安全な道づくり
- ⑤もちろん住み続けます

(30代・女性)

- ①生れたときから
- ②特にない
- ③色々なイベントに参加して町を盛り上げる
- ④育児サポート
- ⑤わからない

(30代・女性)

- ①5年くらい前から
- ②移住してきても住みやすい
- ③思ったことを提案していく
- ④帰ってきたくなるようなまちづくり
- ⑤はい

(30代・女性)

- ①20年前から
- ②自然が豊かなところ
- ③働くこと
- ④安定した職場・企業誘致
- ⑤住み続けたい

(40代・男性)

- ①生れたときから
- ②比較的住みやすい
- ③広報活動など
- ④町職員の地元行事への参加
- ⑤住みます

(60代・男性)

三休公園

わたしが望んだ

大井和西の棚田

私のできること

笑顔

あいさつ

野菜を育てる

山仕事

ギターを弾く

歌をうたう

子守り

散歩

日曜大工

ごみひろい

美味しい料理を作る

ご飯をたくさんたべる

車の運転

米づくり

Speak English

笑顔であいさつ

育てた野菜で美味しい料理

できること

ひとつひとつが

役に立つ

皆でつなげて

地域に活かす

いつもありがとう 応援します消防団



堂々の準優勝!

祝 準 優 勝

岡山県美咲町女性消防隊

第23回全国女性消防操法大会



訓練を重ねた日々



タイムは日本最速!



的を倒した! 速いぞ!



隊長! メダル取りました!

平成29年9月30日秋田県秋田市で、第23回全国女性消防操法大会が行われ、岡山県代表として美咲町消防団さくら隊「女性消防隊」が出場し、見事に準優勝を果たしました。

美咲町消防団では、全国優勝を目指し、指導体制を整え訓練にあたりました。訓練期間は2年3カ月、出動回数は160回に及ぶものでした。訓練を重ねた女性消防隊は素晴らしいチームに育ちました。

そして大会当日、わが「女性消防隊」は実に見事な操法を披露してくれました。タイムは日本一早く、操作技術・正確さ・美しさ、全てが我々の目には日本一でした。

感動を与えてくれた美咲町消防団に感謝し、防災活動の充実を期待します。

美咲町議会消防応援団

議会広報編集特別委員会
委員長 左居 喜次
副委員長 藤井 智江
山田 雄二
松島 幸一
松田 英二
金谷 高子